

多様性を認め合う

中 二

中学二年生になり、今まで様々なことを学んできた。その中の地理の学習で、オーストラリアやアメリカは多文化社会だと学んだ。多文化社会とは、「国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていく社会」である。オーストラリアでは、先住民であるアボリジニの権利を尊重したり、多様な人々が共存し、それぞれの文化を尊重したりしている。

では、多文化社会といわれているオーストラリアは、皆が対等に共存していくためにどのような政策を行っているのだろうか。まず、スーパーマーケットで各国の食材を販売し、宗教上の食習慣に配慮している。他にも無料の英語学習プログラムや多国籍エリアと各国の行事イベントなど移民への配慮が徹底されている。しかもオーストラリアでは、幼稚園などの小さいころから、人権、性別の壁を超え、多様性を認め合う教育が最優先

されている。SDGsの目標十番の「人や国の不平等をなくそう」の達成に必要な、多様性を認め合うという意識をよく育んでいると思う。

では、私たちの住んでいる街、A市は多文化共生のためにどのような政策をとっているのだろうか。A市は「互いにちがいを尊重し、多様性を育む多文化共生のまちづくり」を目標としている。そのために、外国人への支援を行うとともに、私たちの地域に暮らす外国人と私たちが交流を図ったり、多文化理解を促すためのイベントの開催を支援したりしている。私はそのようなイベントがあることも知らなかった。いくら市や国が政策を立てても、自分の中の意識から変えていかないといけないと思った。以前、道を歩いていると、大きな外国人男性五人くらいが歩いてくることがあった。そのとき、私は顔立ちや言語、背たけの違いで、少し恐怖を感じてしまった。自分との違いを受け入れられず、戸惑ってしまったのだと思う。そうではなく一人一人違うことが当たり前だと思いたい、多様性を認め合える人間になりたい。

私が中学一年生のころ、中国から転校生がやってきた。最初は日本語が片言で、みんな教えて

いた。少しずつ上手になっていき、国語のスピーチの時間も日本語をきれいに話していた。しかし、あまりクラスに馴染めていなかった。私も言語の壁などから、積極的に話しかけることができなかった。それから数ヶ月後、私は校外学習の班がその子と一緒にあった。最初は、中国から来たということに不安があり、少し話しかけにくく、ぎこちなかったが、話していくうちに、考え方や中身は私たちとあまり変わらないことに気付いた。自分が無意識に作っていた心の壁が消え、すっきりとした気持ちで校外学習当日を迎えることができた。二年生になり、クラスは分かれてしまったが、今でも廊下で会うと、手を振っている。この経験から、私は、国が違うといえど、みんな中身は似ていて同じ人間だと再認識できた。こちら側が勝手に壁を作っているだけであり、そういう思い込みをなくしていく必要があると感じた。

国や市がどれだけ政策を立てても、それに参加するのは私たち国民、市民である。そのため、私たちの意識を根本から変えていかなくはならない。自分と違うことに自ら興味をもち、それは怖いことではなく、当たり前なのだとして理解する。人

種が違えども同じ人間であり、同じ地球の上で生活している。「みんなちがってみんない」という言葉があるように、一人一人の個性を大事にできるような人間になりたい。